



『健康で文化的な最低限度の生活』 ©柏木ハルコ/小学館 (週刊 ビッグコミックスピリッツ連載中)

第52回 公的扶助研究全国セミナー・大阪大会
大阪で考える
「健康で文化的な最低限度の生活」

【日程】 2019年10月25日(金)～27日(日)

【会場】 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス (大阪府・堺市)

【参加費】 一般：10,000円/大阪府民：8,000円/会員：5,000円/
学生：5,000円 1日目懇親会参加費：4,000円

※フィールドワーク参加者は別途2,000円が必要となります

※一次締切日(2019年10月11日)以降の申し込みの場合、別途500円を参加費に追加させていただきます。

くわしくは、公的扶助研究会ウェブページへ <http://www.kofuken.com/>

(開催要項をご覧ください、参加申し込みをお願いします。)



≪主催≫ 全国公的扶助研究会・第52回公的扶助研究全国セミナー実行委員会

≪共催≫ 大阪府立大学教育福祉研究センター

≪後援≫ 大阪府・堺市・大阪府社会福祉協議会・堺市社会福祉協議会・日本社会福祉士会・
日本医療社会福祉協会・日本精神保健福祉士協会・日本ソーシャルワーカー協会・
大阪社会福祉士会・大阪医療ソーシャルワーカー協会・大阪精神保健福祉士協会・
堺市職員労働組合

1日目 全体会

【記念企画】「貧困と向き合った高校生たち～大阪府立松原高校の取り組み～」

～学校をプラットフォームにした支援を考える～

大阪府松原高校での選択授業「産業社会と人間」で「誰もが自信をもって生きていける社会は実現可能か」をテーマに『貧困』や『自己責任』と向き合った高校生たち。「貧困は自己責任なのか」について松原駅前100人アンケート調査を実施したり、福祉事務所のケースワーカーにインタビューをしながら研究を進め、成果を発表する年度末のコンペティションでは最優秀賞を獲得しました。発表では貧困は自己責任ではないと力強く語り、「1ミリでも世の中を変えるきっかけ」にするために松原高校内外で居場所づくりを実践しています。貧困と主体的に向き合った子どもたちの想いや居場所づくりの取り組み、それを支えた教師の関わり、さらに、居場所を活用したスクールソーシャルワーカーの実践報告を基に、学校をプラットフォームにした支援の可能性を考えます。

【リレートーク】「当事者から学ぶリレートーク」

【トークセッション】「いま貧困問題にどう向き合うか」

記念企画、リレートークを受けて、生活保護ケースワーカーに求められている支援について語り合います。



2日目 分科会

【初級学校】「初めての生活保護ケースワーカー入門編」

【政策研究】「生活保護基準と最低賃金、自動車と稼働能力活用を考える」

【生活困窮者自立支援制度】「生活困窮者自立支援制度を有効に活用した支援を考える」

【ケースワーカー実践講座】「実務に役立つ生活保護の基本と運用を学ぶ」

【ソーシャルワーク】「ステージアップ ソーシャルワーク」

【子どもの貧困】「子どもと貧困 支援のあり方考える」

【就労支援】事例からひも解く就労支援ソーシャルワーク」

【精神障害者・知的障害者支援】「精神障害・知的障害をもつ人たちとともに」

【福祉事務所】「福祉事務所のこれからを考える」

【居住福祉】「『住まいの貧困』をなくすために何が求められるか」

【西成フィールドワーク】「変貌する大阪・釜ヶ崎（西成愛隣地区）のフィールドワーク」

（西成フィールドワークは定員30名（抽選）、1日目の参加が必要です。別途参加費2,000円がかかります。）



1日日夜 懇親会

「なにわともあれ、セミナーの醍醐味はこれちゃう？」

会場：大阪府立大学生協



3日目 特別講座

【生活保護裁判・審査請求】「生活保護争訟の現状と日弁連・生活保護法改正要綱案」

【漫画から学ぶ実践】「教えて半田さん！半田さんに学ぶケースワーカーの心と術」

【依存症支援】「依存症者への支援と生活保護ケースワーク」

【ひきこもり支援】「ひきこもり理解と支援」

【ひとり親支援】「シングルマザーへの支援のあり方」

【医療・福祉・介護の連携】「医療、関係機関と福祉の『連携』で地域生活を支援」

【女性問題・DV】「女性と暴力被害」

【発達障害者の理解】「貧困現場の中での『発達障害』」

【司法福祉（刑余者支援）】「刑余者支援と生活保護ケースワーク」

【福祉従事者のメンタルヘルス】「福祉援助者のバーンアウト（燃え尽き）を防ぐためには」



あなたにぴったりの講座を見つけて
ぜひご参加ください。
お待ちしております。

